

学生の主体的な学習の”場”としての大学づくり

大学の役割

本グループでは、まず大学とはどのような機関であるかを考え、各大学の特色・活動内容の共有を行ったうえで、私立大学の役割についてグループ内で討議を行った。

まず、大学とは「教育」のみでなく「研究」を行う場であることを確認し、社会から求められている大学の役割は過去と現在では異なっていることを踏まえつつ、大学の求められる役割は下記 3 点に集約されるとの結論に至った。

1. 人材育成

→建学の精神に基づいた、社会へ貢献できる人材育成を行う

2. 研究活動、研究成果の発信

→研究活動の場のみでなく、その成果を大学として発信する

3. 地域への社会貢献

→大学の設置により、学生による地域の活性化、公開講座など地域への学習貢献を行う。

テーマの選定

大学の役割において、社会から一番求められている「人材育成」を中心に、社会の中でより貢献できる人材を育成できる大学を目指すべく、本グループでは「人材育成」を主題として現代社会が求める人材について検討を行った。

グループ内での意見を集約し、現代社会が求める人材とは、自らが考え行動し、他者との円滑なコミュニケーション能力を持つ「主体性のある」人材であると結論に至り、本グループのテーマを主体的な学生を育てる大学を目指すために「学生の主体的な学習の”場”としての大学づくり」と設定した。

大学の現状

大学の現状はどのようになっているのか、グループ内の学生への印象を話し合い、自ら考えて動く、「主体性のある」学生が少ないという状況にあることが分かった。

また、グループ内で学生のみならず、教職員間のサポート体制の不足、学習する場の不足や活用といった点も現状の課題としてあると考えた。

問題の深堀

大学の現状で記載した問題について、問題点の確認・整理を行い、大学側が学生のモチベーションを下げているケースがあることがグループ内で共有され、下記の結論に至った。

1. 主体的な学生が少ない

→予習復習をせず、疑問点があっても質問や調査を行わない等、目的意識や意欲に欠ける学生が多く見受けられる。

2. 教職員のサポート体制が確立していない為、学生のモチベーションが下がる
→講義課題提出後のフィードバックが無く、部署間の情報共有が不十分の為、学生相談が十分に行えていない。
3. 学習するための”場”が少ない、”場”があっても上手に活用されていない
→講義内容として意見交換を行う場面が少なく、意見交換の場としての環境が不十分であり、環境整備後も活用方法について教職員間の共有がなされていない。

解決策の検討

問題点の深堀を行うなかで、大学の役割を果たす上での課題を明確にすることができたため、課題について「大学側」、「職員側」の2点から解決策の検討を行った。

・大学としての取り組み

- (1)教員からの積極的な評価のフィードバック
- (2)学生カルテを活用し、学生の成長を見守る
- (3)学生に知る喜びを体験できる機会を増やす
- (4)学生ポータルサイトに4年間の日数である「1460日」のカウントダウンを実装する
- (5)1年間毎に自分自身が何を成したのかの振り返りの機会を作る
- (6)学内 SNS を通して学生度牒が刺激しあう環境を整える
- (7)情報基礎力、倫理観の向上に取り組む

・職員の役割

- (1)学生への対応に責任感を持つ
- (2)部署間の連携をしっかりと取り、情報共有を行う
- (3)学生からの視点を理解し、講義室の環境等の把握を行う
- (4)学生に対し、一番身近な社会人としての手本を実践する
- (5)PBL や LTD 等の参加型授業を教員へ提案し、実施へのサポートを行う

まとめ

解決策の検討で挙げた、在籍日数のカウントダウンにより、学生一人一人に学生としての残り時間を意識させ、時間の使い方を考えてもらうことで、学生の主体的な行動を促すことができると本チームは考えた。

講義に対しては予習・復習用教材のアップロード環境を整えることで、時間・場所を問わず学生が自ら学びやすい環境ができ、学生の自発的な学習環境ができると本チームは結論に至った。

重要なのは大学として学生側に対して動機付けができる環境により、学生の自主性を育てることができることであり、教員だけでなく我々職員も学生を育てるということを意識し、大学全体として学生の成長を見守ることで、学生が自発的に動くことができる環境を目指すべく、日々の業務を遂行していきたい。